

---

**ものの系おんらいんげえむ へようこそ。**

布団ごもり

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ものの系おんらいんげえむ へようこそ。

### 【Nコード】

N7698Y

### 【作者名】

布団ごもり

### 【あらすじ】

ネット友達が進めたゲーム 「百鬼夜行オンライン」  
一人暮らしの 山崎 白は そのゲームをプレイするのだが、、  
ネット世界から始まる ネット仲間3人と妖怪達をまきこんだ  
おかしな物語 ゲームスタートです

一 げえむ すたあと

パソコンから機械音がうなる

「はあ、、、、」

一人だけの家にため息がもれる

だけど さまざまな機械音にかき消されて また静かになった  
静かになったら また悲しくて 同じ音が聞こえて消えた

僕 山崎 白<sup>つくも</sup>16は現在 一人暮らしである

両親は 一生の運を使い果たしたのか 宝くじの一等を当てて  
今 世界中を旅している

その両親が変わった人であることは 僕の名前でわかると思う

9月9日生まれの僕から 9・9 から 99 という発想になり

九十九 で つくも と読むそうだし

それでも 物足りないと思ったのか

九十九 つまり 百 より 一 少ないということだ

百 の漢字の上の 一 をとって 白 と書いて つくも

もう慣れたけど 小さい時は いやで仕方なかった

いろんな人にかかわられて 学校に行くのが嫌だったぐらいに

その頃からかわからないけど ネットでの友達が多かった

「あ こあちゃんINしてるじゃん」

マウスのクリック音が響く と同時にチャットが起動

機械音がよりいっそう増す

- つくもさんがログインしました -

K O A 「おお さすが 暇人w」

つくも 「それはこあちゃんもでしょ」

K O A 「おい ぶつとばすぞ」

兎 「こあちゃん 今病気で休暇とってるんだってさ」  
つくも 「えw mjk ごめん 大丈夫？」  
兎 「ていうか 私に挨拶は？」  
K O A 「まあ ただの風邪なんだけど大きさに言って休暇とっ  
た」  
つくも 「結構 自由なんだね」  
K O A 「まあ 小さい商店だからね 女に弱いんじゃない？」  
兎 「泣いていいですか？」  
- 神さんがログインしました -  
神 「おはよーw」  
K O A 「おっす」  
兎 「かみさま 助けてー」  
つくも 「ひさしぶりやね」  
神 「ん 兎ちゃん どうした？」  
兎 「みんなに無視されるー」  
神 「それよりさ ちょっとおもしろそうなネットゲ見つけたん  
だが」  
兎 「ちょwww」  
K O A 「神が勧めるネットゲ 基本おもしろくないじゃんw」  
つくも 「えw こあちゃんひどw 神 教えてー」  
神 「ひどwww」  
神 「ん おっけーおっけー 今URI張るから」  
兎 「期待w」  
つくも 「待つてるわ」  
K O A 「まあ 今回も騙されてやるわ」

画面を眺める なかなか URLが遅い  
この4人がいつもチャットする友達

神 は結構のんびり屋の二十歳 大学生  
みんなのやさしい兄貴みたいな存在  
でもよくネットパチンコをしていて  
チャットに来る数は一番少ない

KOA は 18歳なんだが愛車はパジェロ  
髪は金髪 声はひくめの かっこいいお姉さん  
口がちよつと悪いけど 一番いい人

兎 は同じ年の女の子 女の子らしい女の子  
都会育ちで しっかりした子 つぼが浅い  
よくビデオ通話をする友達でもある

この四人でよくいろんなゲームをやっけていく  
神がゲームを紹介して みんなでやるのがいつも

ピンポン！

玄関からめずらしい音が聞こえる  
おどろいた手が チョコを落とす

「はい」

と僕はいいながら ドアに向かいドアを開ける  
宅急便だ 適当に作業を終わらして パソコンの前に急ぐ  
案の定 もうさすがにURLは張られていた  
クリックすると 大きな文字が画面の真ん中に出てきた

百鬼夜行オンライン

見たことも聞いたこともないゲーム名を目にした僕は  
とりあえず登録を行う ID名を打って  
パスワードを打って 誕生日を打って、、、

そして途中でその謎に気づいた

「あれ インストール不要なのか？」

ゲーム紹介のページでは 写真のように綺麗な世界が写っている  
こんなにいい画質で3Dのゲームが インストール不要の意味がわ  
からない ふと チャットの画面を見る

そこでは 他の3人も同じ謎に気づきおもしろがっている  
でもとりあえず 全員起動してみることにした  
起動するまえに僕はやることがある

コーンポタージュの素をコップにいれお湯を注ぐ  
いい香りがアパートの小さい部屋に漂う

どれだけ暑くても ゲームをやるときは コーンポタージュを  
飲みながらやるのが僕の中のルールだ

一口飲んだ後 手がマウスに進みマウスは起動ボタンの上で止まる  
カチツ ピンポーン！

どちらの音が先に聞こえたのかわからないぐらい  
ほぼ同時に聞こえた

画面は ゲームをロードしているのか真っ暗になった

「また宅急便か？」

と ぼそぼそつぶやきながら ドアノブを回す  
ドアが開くと 真っ青な景色が目を含む

アパートの3階にすんでいるからいつも青空は多少みえる  
でも 今見ている 青は 真っ青

小学校のときだった 絵の具の青  
こんな現象ってあるのかと 不思議に思いながら  
すこし上を見る

目が合う

私の右目か左目かどっちの目が合っているのかはわからないが

その 青いカラダの奴のひとつしかない目に  
目が合った

口からは 白いものが大きく突き出している  
よくみたら 額からもちいさく出ている

ああ 小さい頃に絵本でこれに似たものをみたことがある

鬼だ

気づいたら 僕は自分のぺっしゃんこになっている靴の上に  
座っていた

その大きな口は言う

「新規プレイヤー一人 サーバーに接続いたします」

その瞬間僕の首元をつかみ 大きく青いカラダを反対に回して  
宙に 僕をなげた 意識が飛んだ

タラッタラ

音が聞こえる ゲームの音

めざましをこんな音に設定した覚えはないのに

目を覚ます僕の目に映るのは 森  
そして 僕の頭の中で響く電子音

【つくも がろぐいんしました】

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7698y/>

---

ものの系おんらいんげえむ へようこそ。

2011年11月22日23時52分発行